

日常を通して平和を学ぶ

1 対象学年 小学5年生

2 ねらい

子どもたちは、国語科や社会科の授業などで、戦争の恐ろしさや悲惨さについて学習する。しかし、これらの学習だけでは、平和を願う心を十分に育てることはできないと考える。わたくしたちの日常生活の中にも、人と人との対立が存在しており、このような対立が戦争につながるということを認識させることで、平和を願う心を育てていきたい。

本学級の子どもたちの様子を見ると、学校生活を明るく活発に過ごすことができている。しかし、友だちの悪口を言ったり、友だちの意見を聞かずに自分の意見ばかり主張したりするなど、相手のことを考えずに行動し、人を傷付けてしまうこともしばしば起きている。子どもたちの平和を大切にしていこうと思いを育てるためには、第一歩として、相手を思いやる気持ちを育てていくことが大切であると考えている。

そこで、なじみやすいイソップ物語を資料として活用し、登場人物の立場や考えの違いをわかりやすく理解させ、人と人との対立について考えさせるようにする。次に、その対立が人と人ではなく、国と国ならどうなるかを考えさせ、国と国との対立になれば戦争が起こるということをつかませたい。そして、人と人、国と国との対立が起こらないためにはどうすればよいかを考えさせ、まず人と互いを思いやり、認め合うことが大切であるということに気付かせたい。

3 指導の流れ

(1) 準備 ・ワークシート①② ・新聞記事【2012. 8. 6 朝日新聞（広島版）】

読み物資料：「水をうつ漁師」

登場人物の「川上の漁師」と「川下の住人」が、川の水をめぐる対立している様子を描いたイソップ物語。

(2) 指導計画

時間配分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
5分 4分	1. 読み物資料「水をうつ漁師」を読み、話し合う。 (1) 資料を読む。 (2) 「川上の漁師」と「川下の住人」のどちらに賛成するかを考える。	・ どのような点で「川上の漁師」と「川下の住人」の考えに賛成できたかを簡単な理由も含めて考えさせる。

6分	(3) 自分の考えを発表する。	
5分	(4) 発表内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 板書の内容を振り返らせ、「川上の漁師」側の意見も「川下の住人」側の意見も、それぞれ自分たち中心の考えであることに気付かせる。
2分	(5) 国と国との対立について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「川上の漁師」と「川下の住人」のように、いつまでも対立を続けたらどうなるか考えさせる。 ・ 人と人から大きくなり、国と国との間になったならどうなるかを投げかけることで、戦争が起こってしまうということに気付かせる。
5分	2. 自分の日常について考える。	
	(1) これまでの対人関係について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身の行動を振り返るため、だれかと言いつつ言い合いになったり、自分の意見ばかり主張して相手を困らせたりした場面をワークシートに記入させる。
10分	(2) どうすれば解決できたのか自分の考えを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発言をひろいながら、互いに認め合うことが大切であるということに気付かせる。
3分	3. 新聞記事について考える。	
	(1) 新聞記事を読み、著者の気持ちや願いを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいに迫るため、著者は一番何を言いたいのか考えさせる。
5分	(2) 感想を書く。	

4 実践のまとめ

【読み物資料「水をうつ漁師」を読み、話し合う場面】

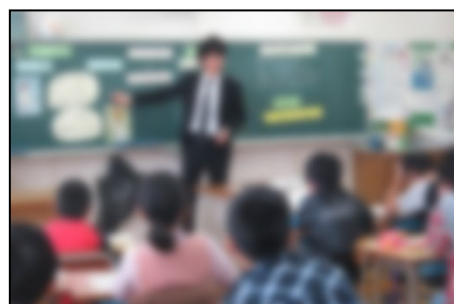
授業の導入で、ワークシート①を配付し、読み物資料「水をうつ漁師」を読んだ。読み終えた後、子どもたちからは、「住人がやめろなんて言ったら、漁師が仕事できなくなってしまうんじゃないか」や「漁師のせいで、住人が水を飲めない」などといった発言があり、話の内容をつかんでいる様子が確認できた。

「川上の漁師の考えと川下の住人の考えとどちらに賛成できますか」という発問に対しては、「川上の漁師」に賛成したのは15人で、「川下の住人」に賛成したのは9人であった。子どもたちの考えは、以下の通りである。

川上の漁師に賛成した理由	川下の住人に賛成した理由
○ 漁をやめたら、暮らせなくなるから	○ 水は食べ物よりも大切だから
○ にごった水でも、ろ過機を使ってきれいにすればいいから	○ 漁の仕方を変えれば、水がにごらなくなるかもしれないから
○ 川下の住人が違うところで水を飲めばよいから など	○ 川上の漁師は、違う川で漁をすればいいから など

発表中、友だちの話を真剣に聞いていたり、友だちの考えに対して賛成や反対意見を言ったりする子どもの様子が見られた。

自分の考えを発表した後、発表内容を振り返る活動を行った。子どもたちの意見を書いた黒板に注目させると、「どちらも自分たちの生活を守るためだけど、わがまま過ぎる」などのつぶやきがあり、川上の漁師も川下の住人もそれぞれ自己中心的な考えであることに気付くことができた。



【授業の様子】

その後、「登場人物の2人が、いつまでも対立を続けたらどうなるかな」と投げかけると、「いつまでたっても終わらない」「いつか殴り合いになるんじゃないか」という声が返ってきた。そこで、「人と人ではなくて、国と国との間になったらどうなるかな」と問い返すと、「戦争になる」と子どもたちは口をそろえて言った。教師の投げかけにより、人と人から国と国との対立に大きくなれば、戦争が起こってしまうということに気付かせることができた。

【自分の日常について考える場面】

読み物資料の中で出た対立と、戦争との関連に気付いた後、ワークシート②を配付し、「だれかと言いつつ言い合いになったり、自分の意見ばかり主張して相手を困らせたりしたことはないか、思い出してみよう」と投げかけ、自分の日常について振り返る活動を行った。

子どもたちが思い出した場面は以下の通りであった。



公園で遊ぶとき、ドロケイをやろうか、ドッジボールをやろうかで友だちとケンカになったことがある。



弟とお母さんの誕生日プレゼントを買うときに、文房具にしようかアクセサリーにしようか言い合いになったことがある。

次に、思い出した場面で、どのようにすれば解決できたかを考えさせると、子どもたちからは、「はじめに自分から謝ればケンカは済んだ」「相手の言っていることをきちんと聞こうとしないといけなかった」などといった発言があった。それらの発言をもとに、「解決のためには、互いに認め合うことが大切」と意見をまとめることができ、子どもたちが大きくうなずく姿を見ることができた。

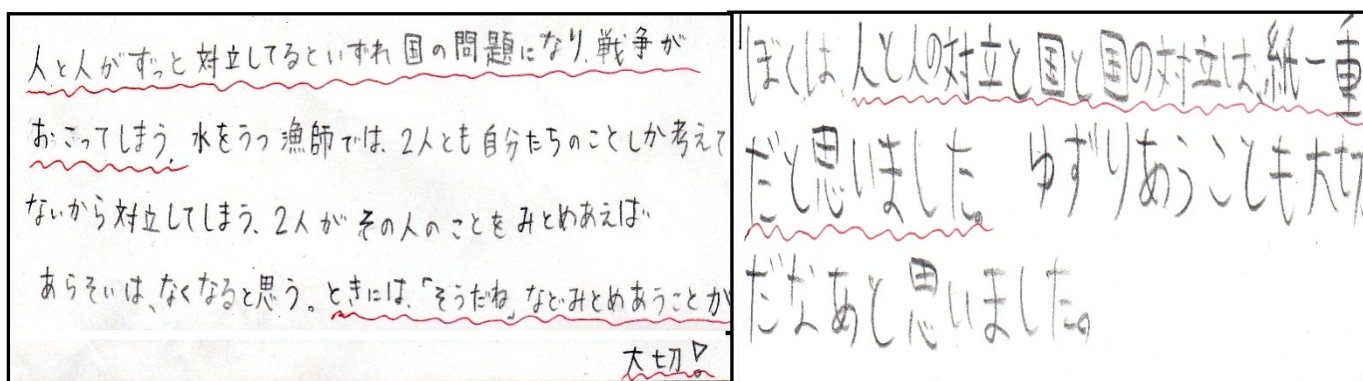
【新聞記事について考える場面】

自分の日常について考える活動を行った後、「さっき国と国との対立がいつまでも続いたら戦争になるって話をしたけど、戦争と平和についてこんな記事を見つけました」と言いながら、新聞記事を配付した。記事を読んだ後、「記事の著者は一番何を伝えたいのでしょうか」と問いかけ、著者の気持ちや願いを考える活動を行った。

子どもたちからは、「原爆だけで平和は語れない」「日々の暮らしの中で、いろいろな考えの人がいる」などと、記事の中のキーワードを拾い上げて、著者の気持ちや願いを考えることができた。

最後に、学習を振り返り、感想を書かせた。子どもたちの感想は以下の通りである。

その他の感想の中には、「認め合う」や「相手の考えを聞く」などといった言葉が多く見られた。



【子どもたちの感想】

5 実践の成果と今後の課題

読み物資料「水をつ漁師」は、人と人との対立をわかりやすく取り上げたものであったため、子どもたちが考えやすく、授業の導入をスムーズに行うことができた。また、教師が人と人の対立を、国どうしの対立に広げる発問をしたことで、日常の対立と戦争とをつなげて考えさせることができた。

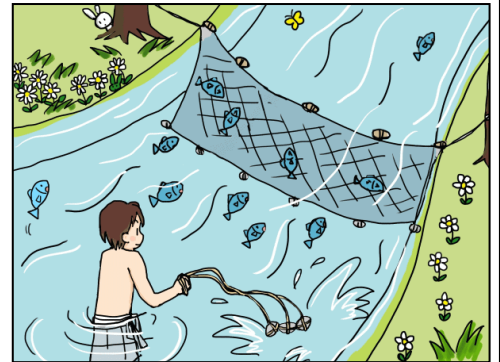
そして、自分の日常を振り返らせることで、自分の意見ばかり主張して相手を困らせてしまうような出来事が対立のもとであり、対立を解決させるためには、まず一人ひとりが互いを思いやり、認め合うことが大切であるということに気付かせることができた。最後に、新聞記事を配付したことで、対立のないことが平和につながることも感じさせることができた。

実践後の子どもたちの様子を見てみると、友だちの気持ちを考えて行動する姿が少しずつではあるが、見られるようになった。しかし、依然として、友だちの気持ちを考えずに行動し、一方的に自分の考えを相手に押し付けたり、ケンカをしてしまったりすることもある。今後も、自分の考えや気持ちと同等に友だちの考えや気持ちを受け入れ、認め合う態度を身につけさせるために、実践を積み重ねていきたい。

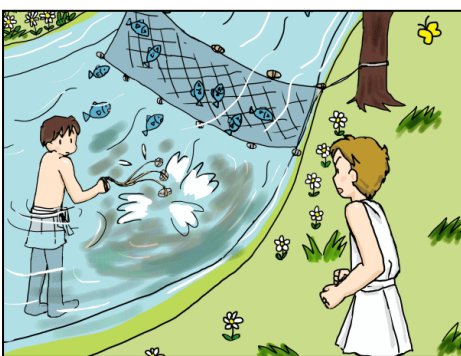
資料：「水をうつ漁師」

ある日、川上に住む漁師が、川で魚をとっていました。
 こちらの岸から向こうの岸まで、川の流れをせき止める
 形にアミを張っておいて、ヒモの先に小石をくくりつけた
 物で、水をバシャバシャとうつのです。

すると、おどろいた魚は逃げようとして、アミに引っか
 かるのです。



すると、川下の住人が漁師のしていることを発見して、



「そんな事をすれば、川の水がにごってしまう。あなた
 はわたしたちに、にごった水を飲ませるつもりか！」
 と、怒りました。

それに対して漁師は、

「だけど、この川の水をにごさない様にしていれば、わた
 したちが、うえ死にになってしまうじゃないか！」
 と、言いました。

1. あなたは、川上の漁師と川下の住人のどちらに賛成しますか。記号を○で囲みましょう。

A. 川上の漁師

B. 川下の住人



2. 自分の日常についてふり返りましょう。

(1) あなたは、どんなことで言い合いをしたことがありますか。

(2) どうすればよかった（解決できた）と思いますか。

参考資料：「平和 認め合うことから」

平和のためにはどんなことが大切か、さらに考えてみましょう。



あ 平和 認め合うことから

【あらすじ】原爆投下から10年後の広島市・太田川沿いにあった「原爆スラム」で暮らし、23歳で原爆症で亡くなった平野啓美と、半世紀後の東京で暮らすあいの石川七波が主人公。3世代にわたり、原爆の重い影を背負い日常を生きる姿が描かれている。



こうの・ふみよ 1968年、広島市生まれ。95年、「街角花だまり」でデビュー。「夕風の街」で04年度の文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞受賞。

著者 こうの史代

小さいころ、私は原爆や戦争のことが嫌いで仕方ありませんでした。広島市西区で過ごし、休み時間には先生から戦争体験を聞き、平和記念資料館にも行きました。でも、「怖い」としか思えなかった。「原爆は怖いから二度と繰り返してはいけない」。小学校でそう言えば、ほめてもらえました。ただ心の中は、ずっとモヤモヤしていました。大人になっても原爆のことがテレビに出ると、チャンネルを変えていました。少し変わったのは、上京してから。東京では8月6日午前8時15分に黙禱する人はほとんどいません。淡々と日常が送られている。そのギャップを縮めたいと思い、描いたのが「夕風の街 桜の国」。被爆から10年後の日常を描きました。その後いくつかの作品を描くうち、ようやくモヤモヤの理由がわかってきました。それは、原爆だけで平和は語れないということ。平和な社会を築くには、日々の暮らしの中で、いろいろな考えの人がいることを認め合うことが大事だと私は思っています。主人公を、自分や親しい友だちに置き換え、読んでみてください。そうしたら、何か見つけることができるかもしれません。

朝日新聞（広島版） 2012. 8. 6 別刷り特集より抜粋



○ 学習をふり振り返り、感想を書きましょう。

Blank box for writing reflections.